

歩いて学ぶ復興への道 神戸・長田で「あいウォーク」



復興した長田区を歩いた後、地域住民の被災体験を聞く参加者＝神戸市長田区水笠通2

者はグループに分かれ、JR鷹取駅南東の大国公園を出発。区画整理地区など約3キロを歩いた。

若松公園では、新長田まちづくり株式会社の六田正幸社長が「鉄人28号」モニュメントを紹介。「市民や地元企業の協力で完成した。28号効果で出店やイベントも増えた」と説明した。

初めて参加した灘中1年の荒木仁さん(13)は熊本市出身。2016年の熊本地震では避難生活を経験した。「神戸では火災による被害が大きかったと知り、地域によって被害が異なる地域の怖さをあらためて感じた」。同中1年の重久慎太郎さん(13)は「地域住民の連携があったからこそ復興だと思っただ」と語った。

(末永陽子)

阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けた神戸市長田区では、被災地を巡る「あいウォーク(あい)ウォーク」が1999年に始まった恒例行事。約140人が地元住民らの体験を聞きながら、復興への歩みをたどった。

「しみん基金・KOBEL」(神戸市中央区)などによる実行委員会の主催。参加